

~~~~~  
お知らせ  
~~~~~

第二回理論懇談会シンポジウム（国立天文台共同利用研究会）のお知らせ

今年度の理論懇談会シンポジウムを12月25日（月）～27日（水）に国立天文台三鷹の講義室で開催します。題は「宇宙の誕生から太陽系の起源まで（I）」として、宇宙の様々な研究対象について総合的議論と研究発表の場としたと思います。春の学会時の理論懇談会で話し合われた通り、公募する発表は今回はすべてポスターによる発表にします。そして、口頭の発表ではいくつかのテーマを選び、各セッションでは Review に1時間とり、残りの1時間は Discussion の時間とし Chairman の責任で進行して、一つ一つのテーマについて問題点の把握・学問的流れの方向・最近の進歩と将来性について展望できればと考えています。具体的には、Chairman が数人のポスター参加者の口頭発表を指示したり、または議論中心に進めても良いと思われまふ。世話人を中心に8つのテーマを決め、以下の方々を Reviewer と Chairman にと計画しています。

テーマ	Reviewer	Chairman
宇宙初期	佐藤文隆	佐藤勝彦
宇宙の大規模構造	梅村雅之	池内 了
銀河の進化	土佐 誠	藤本光昭
重力N体・球状星団	杉本大一郎	稲垣省五
超新星・中性子星の形成	野本憲一	蜂巢 泉
アクリーションディスク	加藤正二	尾崎洋二
重力波	中村卓史 藤本真克	富松 彰
磁気流体現象(MHD)	柴田一成	内田 豊

今回取り上げなかったテーマについては今後1～2年で全体を網羅していければと考えています。なおポスター発表のテーマは上の8つのテーマに限らず自由です。

理論懇談会シンポジウム世話人

観山 正見
江里口良治
花輪 知幸

理論懇談会へのポスター発表申込・参加希望またはシンポジウムへご意見は 〒181 三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台理論天文研究系 観山正見に11月30日までにお願いします。

第3回天文教育研究会と天文教育普及研究会の発足

今年も北軽井沢駿台天文台において第3回天文教育研究会が8月4日から7日まで開催された。第1回と第2回は昨年開催された国際天文学連合（IAU）コロキウム

No. 105 の準備と報告のためのものであったが、今回は始めて独自の目標を持った会として行われた。そして、多くの方々の努力によって150名にも達する出席者があり、3泊4日の合宿で密度の濃い議論がなされて大成功であった。

研究会の活動が夏の集りの時だけではなく、より継続的なものにするべきであるという議論をもとに、会組織を作って進めていくことになった。そして、最終日に天文教育普及研究会の設立が承認された。この会の目的は学校教育関係者だけではなく、社会教育関係者やアマチュア天文家の相互の協力のもとに天文学の教育・普及活動を有効に行うことである。このような目的のためにより多くの方々に入会してもらいたいと思う。

天文教育普及研究会の会則・入会申込書の入用の方は返信用封筒に自分の住所氏名を書き72円切手を貼って、〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1、国立天文台天文情報普及室内、天文教育普及研究会あてに申し込んでほしい。又、第3回天文教育研究会集録ができあがったので、入用の方は（天文教育普及研究会会員には無料でお送りします）申し込みのハガキを上記住所に送り、実費1000円を郵便振替（口座番号東京 4-59002 天文教育普及研究会宛、払込み手数料は払込人払い）で送ってほしい。

磯部秀三（国立天文台）

観測天文学シンポジウム—大型光学赤外線望遠鏡の目指す天文学—

国立天文台と日本学術会議天文学研究連絡委員会の共催、光学天文連絡会、日本天文学会（依頼中）の後援により、上記の研究会を開催する予定です。

宇宙論・銀河、星生成・恒星・太陽系の各分野で大型光学赤外線望遠鏡によって開かれる天文学を展望することを目的とし、中堅・若手の方々にレビューをお願いし、議論を深める計画です。奮ってご参加下さい。

日時：1990年1月9日（火）午前10時～1月10日（水）午後5時

場所：日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

組織委員：小暮智一、杉本大一郎、小平桂一、池内了、祖父江義明、舞原俊憲、岡村定矩、家正則

問い合わせ先：家正則

〒181 三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台

Tel. 0422-41-3713, Fax 0422-41-3608

VSOP シンポジウム・ミリ波 VLBI シンポジウムのお知らせ

スペース VLBI 衛星およびミリ波 VLBI の国際シン

ポジウムを開催致します。1995年に日本で打ち上げ予定のスペース VLBI 衛星に関する設計・観測計画・国際協力などについて議論を行う予定です。また引き続き、ミリ波 VLBI について最近の成果や観測計画を踏まえて議論を進める予定です。

日時: VSOP シンポジウム

1989年12月5日(9:30 am)～7日(4:00 pm)

宇宙科学研究所 A棟2階大会議室

ミリ波 VLBI シンポジウム

1989年12月8日(9:30 am)～9日

国立天文台野辺山宇宙電波観測所会議室

世話人: VSOP シンポジウム

宇宙研 平林 久

TEL 0427-51-3911 ext. 2708

FAX 0427-51-4251

ミリ波 VLBI シンポジウム

国立天文台野辺山宇宙電波観測所

井上 允

TEL 0267-98-2831

FAX 0267-98-2884

学会だより

欧文研究報告編集理事会からのお知らせ

天文学会理事会では、かねてより学会の財政との関連において欧文報告誌(パブリ)印刷過程の省コスト化の問題が議論されてきました。本年5月に理事長の諮問機関として発足したパブリワーキンググループでは、編集印刷の過程での計算機媒体の導入について議論がされ、編集部に提案がなされています。

そこで編集ではいままでの各方面のご意見やWGの答申などをもとに慎重に議論をすすめてきましたが、パブリ42巻1号(1990年)より、まず印刷過程にTEXを導入して版下づくりを行うことにいたしました。実務的、技術的、体制的にとくに困難は予想されず、かつ財政面などさまざまなメリットがあると期待されます。TEXの導入に際しては、パブリ編集印刷の過程で次のような変化がありますので、ご承知おきくださるようお願いいたします。

論文投稿者からみると:印刷工程の変更ですので、投稿者側には特に変化はなく、従来どおりの投稿規定にそってタイプ原稿で受付けます。レフェリーの査読による審査、編集での判定、受理後は英文校閲、印刷と校正を行うことも従来通りです。ただし、最終的に印刷所に送る段階で、原稿がASCIIコードで書かれている場合は、

原稿に加えてフロッピーディスクを添えて頂けると、省力省コストが促進されますのでご協力を歓迎します。

購読者からみると:印刷の仕上がりにおいて、微妙な活字の変化に気がつく読者がおられるかも知れません。(現在のタイムフォントからTEXフォントになります。)しかし紙面のフォーマットは従来とおなじです。

印刷工程では:版下作りを高品質(1200ドット/インチ)のTEX出力で行うために、従来の印刷会社の他にもう一社が加わります。また電子媒体が添えてある論文については、印刷所における活字入力の手間がはぶげ、校正時のミスが大幅に少なくなると同時に、コストダウンにもつながります。

コストについて:版下作りが従来より安くなり、全体としてコストダウンにつながるを、学会財政面でプラスとなる可能性があります。

以上、編集から印刷工程の変更についてお知らせ致しました。会員諸氏のご理解とご協力をお願い申し上げます。
担当編集理事 祖父江義明

PASJ Letters 新設のお知らせ

日本天文学会欧文報告(PASJ,パブリ)編集理事会では、パブリワーキンググループの要請をうけ、PASJにLetters頁を新設することについて検討を進めてきましたが、このたび編集委員にお諮りした上、理事会でも承認していただきましたので、以下のような要領で第42巻より実施いたします。

1. Lettersの性格

速報的な価値のある、天文学上の発見、新しい知見などを報告する論文を、PASJ Letters頁として発行する。(Ap. J. Letters, Astron. Astrophys. Letters, Nature Lettersに準じた性格のもの。)コンパクトな論文で学界へのインパクトが大きく、とくに速やかなサーキュレーションが望まれるものとする。本論文にくらべ3～4ヶ月(1～2号分)速い発行を目標とする。

関連の本論文が提出されたときの審査はやや厳格に行い、論文をこわげにして出すようなことはさけるようにする。(既存のNoteは短い論文や報告で、研究の一部分の速報的性格をもつが、編集上はとくに上記のような配慮は払われていない。)

2. 投稿の手続き

- ① 封筒にLettersと朱書して投稿する。投稿規定は本論文と同じ。
- ② レフェリーは原則として国内1名とする。
- ③ 審査の結果により、Lettersに適さないと判断された場合、著者の希望により本論文として審査されることもある。
- ④ 著者校正は英文校閲のみとし、初校、再校は編集部